



盛岡市プレスリリース

～ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡～

令和4年6月21日
教育委員会事務局
歴史文化課

市政記者クラブ加盟社 各位

第 65 回 盛岡市先人記念館企画展 「高橋嘉太郎—盛岡の新聞人—」開催について

盛岡市先人記念館では、岩手の牧畜振興に携わり、衆議院議員などを務めた政治家であり、明治期に岩手毎日新聞を創刊した高橋嘉太郎の生涯を資料を通して紹介します。この機会に是非ご覧ください。

記

- 【開催期間】 令和4年7月2日（土）～9月4日（日）
- 【開館時間】 9：00～17：00（入館は16：30まで）
- 【休館日】 毎週月曜日（祝休日の場合は翌平日）、毎月最終火曜日
ただし、8月1日（月）は開館いたします。
- 【場 所】 盛岡市先人記念館 2階総合展示室 企画展示コーナー
- 【入館料】 一般300円、高校生200円、小・中学生100円
盛岡市に住所を有する65歳以上の方は無料
- 【主 催】 盛岡市先人記念館（所管：盛岡市教育委員会）
公益財団法人盛岡市文化振興事業団



「高橋嘉太郎」

画像は本展周知目的のみに使用してください。
画像データが必要な際は、お問い合わせください。
掲載にあたりクレジットとして所蔵先を明記してください。
掲載紙を一部、先人記念館保存用として寄贈してください。

【問い合わせ先】

盛岡市先人記念館

指定管理者：（公財）盛岡市文化振興事業団

担当：主任学芸員 中村 晶子

TEL：019-659-3338 FAX：019-659-3387

巖手毎日新聞

第壹號

(日曜日)

明治三十三年二月二十二日

巖手毎日新聞
發刊の辭

今たる朋牛黨季の輩、彼を助け此
ふ所は一身的政治行動を、其の
の得失、今の政治社會に行動を
然り、吾輩不肖、物かに之を取
歴史横議の徒、我を善し他を悪
る所は世世通人の辭辯、録る所
の事情、今の操縦社會に關係
然り、吾輩不肖、物かに之を取
らして一方に木鐸とし、成見に
是非を語り、好惡に随つて而し
るは、「巖手毎日新聞」が取て爲さ

手に地、史乘に載せられしより、其勢力を
れば、則ち毎に失敗の歴史あり。葛西王の
妻は田村將軍に嫁せられ、六部吏の管轄
安倍氏父子、三代九十年の繁華を極めし
泉氏は嗣後、源氏に滅せらる。北原家は
に阿都野の露と消え、南部伊達兩家は海内
伯の最も舊き者、六百年の土着を以て、雅
の際、廿五藩の盟主たりしも、亦西南諸侯
軍に敗れぬ。其の人材の果して
此して劣るあるか、抑も地勢太だ
て、其の力を扇らざるゝあり。後、
必らずしも論せ、安倍氏が人
、新將軍八幡公の智勇を以て、必
月を費し、必走出羽の清原氏の援
猶存せしめ、名將登壇の機を以て
と雖も、豈に能く白河關を踰ゆる一歩ある
を得んや、顯家の敗つ、方裂け、越前
時、機會已に去りて後、暫く大勢の横濱
地の一角に陣へんと試みしのみ、其の力量
房跡に由る、非也。匹夫王侯を、
天動地行、一代士風の憤慨を打
米大作る、に出で、卓見時に先
福に罹りし高野長英、に出で、

片歌の首倡者俳諧作の天才建
時漢學者の楚題大觀發漢那珂格橋、に出
。蓋し安倍朝時が一萬株櫻を植ゑし東照
、西行をして芳野外、此境あるを歌ふ
め、平泉御藍の莊嚴は、今に至りて金色
名聲りを留りて、好古烈士をして、
はきらしむ。責任責任が歌、早
を教し、數百年間、潜流の時を
風潮、猶存せる者か、んはあ
に於て維新政局影響、大に實際努力に振
者る能はざるも、自由黨が維新に振
せざるの外、觀望し時、進歩黨が現に開
反對黨たる日、皆強者に對し、大勢力
振擧げて、政治上の地位漸く起色あり
學に業を修めて、博士學士の榮
間に派を擧げて文壇に赤幟を樹つ、若し
ては、殆ど亦乏しからず、其の歴史、
年失敗の記載たりと雖も、而かも、
未だ其の衰微を告げざる、こと此の如し。

第65回企画展
盛岡市先人記念館

2022.7.2.SAT-9.4.SUN

高橋

嘉太

郎

一人の新聞家の盛岡

一段の光彩を放ち吾人が現時の社會に
對して望まれる矯正の實を擧ぐる所あるを思
はれ一日に其多きを加ふ此方に岩手毎日
新聞の發行を以て其の目的を達せんとす
其の發行を以て其の目的を達せんとす

在東京 淺香 克孝
大志願せられ萬民救済の光輝に浴してより
於今十年國運の進歩曠々として止むとなく憲
政の發達の緒に就くは是れ其の功績あり
其の功績あり

岩手毎日新聞の發刊を祝ふ
大隈 英廣
鈴木 文三郎
榎 軍之佐

高橋渡河兄弟
足下等今や我同志多年の希望たる、我が同志
の輿論を披瀝して、抱負を紹介し、其主義、
其目的を開陳し、國家一東北一縣下の福利
を増進を期し、岩手毎日新聞の發刊
の大任を負はれ
左に記す

「岩手の新聞昔と今」
講師 菅原和彦氏
(株式会社岩手日報社常勤監査役)
七月十六日(土) 十三時三十分
から十五時まで盛岡市先人記念
館地下ホールで開催する。
申込は七月二日(土) 九時から
盛岡市先人記念
館にて電話受
付。定員四十人。

名須川 他山
之遺流也今夫萬國有新紙也猶
夫有國春秋者昔之樂苑之勝抗
之春秋至今爲盛矣其他大約
斥世豈可得哉則其書者不足
於其獨於海内非街術之所能料
手筆者亦唯莫辨四五種焉耳
兩又焉可謂學史乎哉岩手毎日
一言余利目前之其文則政通條
切不厭於同不厭於異其政通條
切不厭於同不厭於異其政通條

在焉是余之所以
五種大手筆並
期月之後余欲
先鳴之餘勇馳驅三百放然書之
云
明治三十二年
一月二十二日書于東京倚居
二月二十二日岩手毎日新聞の初
號を刊行するに
寄せて余の一
言を述べしに
其の記述切實
其の論議卓厲
是は余の深く
所を以て余は
始ありて終り
新聞雜誌の事
一其の事業業
北上川の洋々
一其の如く又
氏果して之を
行を祝ふと云



岩手毎日新聞の發刊を祝ふ
大隈 英廣
鈴木 文三郎
榎 軍之佐

開館時間 午前9時〜午後5時まで(ただし入館は午後4時30分)
休館日 毎週月曜日(祝日日の場合は翌平日、毎月最終火曜日)
入館料 個人：一般300円 高校生200円 小・中学生100円
団体：一般240円 高校生160円 小・中学生 80円
(団体料金30名以上の団体に適用します)
盛岡市内に住所を有する65歳以上の方は入館無料。
指定管理者/公益財団法人盛岡市文化振興事業団
〒02000866 岩手県盛岡市本宮字蛇屋敷212
TEL 019-6559-3338
FAX 019-6559-3387

岩手毎日新聞の發刊を祝ふ
大隈 英廣
鈴木 文三郎
榎 軍之佐

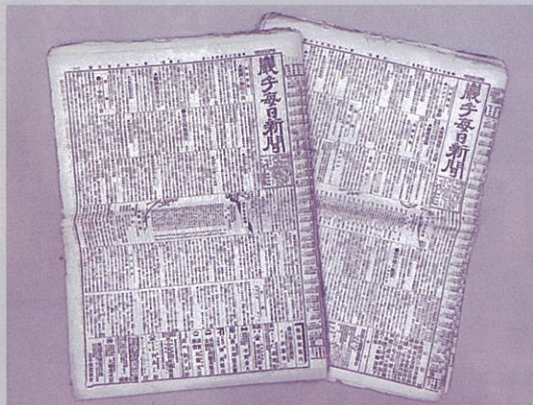
高橋嘉太郎

— 盛岡の新聞人 —

高橋嘉太郎は、嘉永5年(1852)に和賀郡二子村(現在の北上市)に生まれました。県の牧畜振興に携わり、衆議院議員などを務めた政治家ですが、岩手毎日新聞の創刊者として知られています。岩手毎日新聞は明治32年(1899)から昭和8年(1933)まで岩手で発行されていた地方新聞で、当時多くの読者を獲得するとともに、現代の私たちが明治・大正の岩手の社会情勢を知る上でも非常に興味深い資料です。令和4年(2022)、嘉太郎が生誕170周年を迎えることを機に、岩手のジャーナリズムに大きな足跡を残した彼の生涯をたどります。



【高橋嘉太郎】(1852～1928)



岩手毎日新聞 明治32年(1899)創刊。一時は岩手日報とともに多くの読者を獲得しましたが、昭和8年(1933)に終刊しました。



萬鉄五郎画「高橋嘉太郎肖像」(萬鉄五郎記念美術館寄託 高橋嘉一氏蔵)



【岩手県下之町村】大正14年(1925)9月発行。高橋嘉太郎の著書。

関連イベント

◇シリーズ講座 **【演題】「岩手の新聞 昔と今」**
【講師】菅原和彦氏(株式会社岩手日報社常勤監査役)
【日時】2022年7月16日(土) 13:30～15:00



◇学芸員講座 **【演題】「高橋嘉太郎について」**
【講師】中村晶子(盛岡市先人記念館主任学芸員)
【日時】2022年8月21日(日) 13:30～14:30

※両講座ともお申し込みは7月2日(土) 9:00から盛岡市先人記念館にて電話受付。定員40人。

◇展示資料の解説 **【日時】2022年7月24日(日)、8月7日(日) いずれも13:30～14:00**
【会場】盛岡市先人記念館 地下ホール

公益財団法人盛岡市文化振興事業団からのお知らせ

■石川啄木記念館
第16回企画展「啄木と修学旅行」
5月17日(火)～9月11日(日)

■原敬記念館
第63回企画展「原敬と大慈寺」
6月25日(土)～9月11日(日)

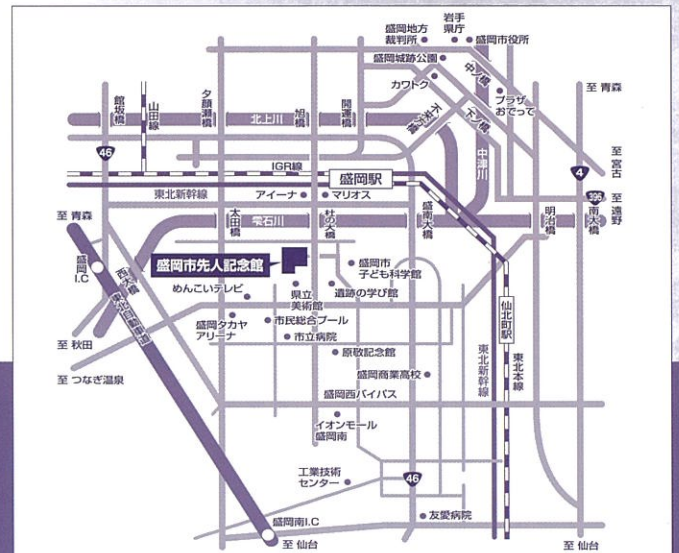
■盛岡てがみ館
第65回企画展「切手から見る岩手」
6月28日(火)～10月10日(月・祝)

ご来館の際は、マスクの着用・手指の消毒などの新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策にご協力をお願いいたします。
感染症の拡大状況によっては中止や変更となる場合があります。

交通アクセス

- 【バス】県交通・盛南ループ200 県立美術館前下車 徒歩約5分
- 【タクシー】盛岡駅より約10分
- 【徒歩】盛岡駅西口(マリオス前)より約15分
- 【自動車】東北自動車道盛岡ICから車で約15分 盛岡南ICから車で約10分

■主催：盛岡市先人記念館(所管：盛岡市教育委員会)・公益財団法人盛岡市文化振興事業団



盛岡市先人記念館

指定管理者：公益財団法人盛岡市文化振興事業団
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字蛇屋敷2-2
TEL 019-659-3338 FAX 019-659-3387

